

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 12年6月

～市場予想を大きく下回り、3ヵ月連続の低下

経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

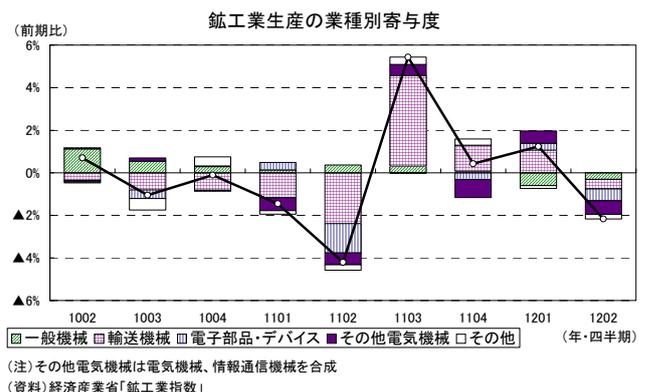
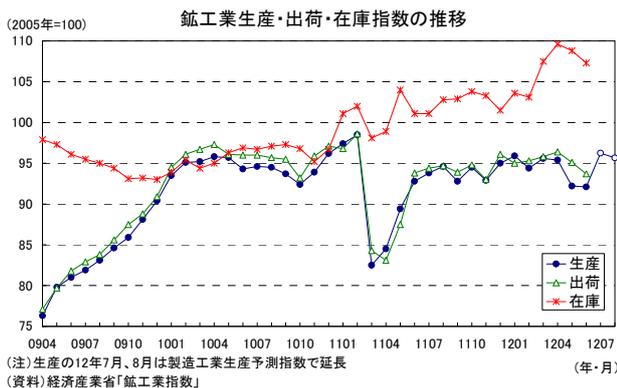
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 4-6月期は前期比▲2.2%と4四半期ぶりの減産

経済産業省が7月30日に公表した鉱工業指数によると、12年6月の鉱工業生産指数は前月比▲0.1%と3ヵ月連続の低下となり、事前の市場予想(QUICK集計:前月比1.6%、当社予想は同1.0%)を大きく下回った。出荷指数は前月比▲1.5%と2ヵ月連続の低下、在庫指数は前月比▲1.4%と2ヵ月連続の低下となった。

5月の大幅減産(前月比▲3.4%)はGWの関係で工場の稼働日数が少ないことが影響しているとみられていたが、6月の生産はそれよりもさらに低い水準となった。生産は実勢として弱含んでいると判断される。

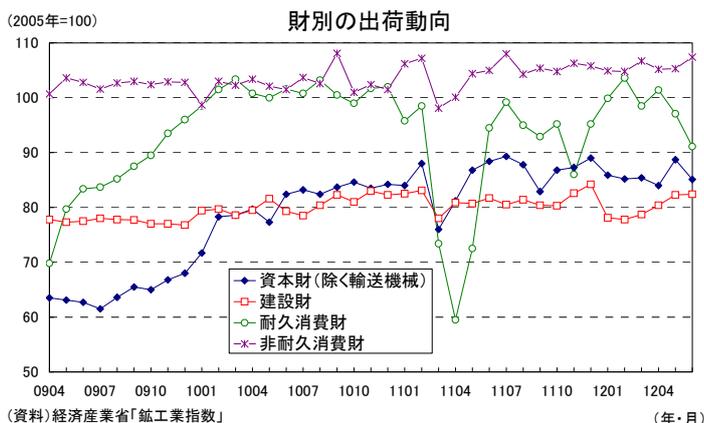
6月の生産を業種別に見ると、在庫調整の進展を受けて電子部品・デバイスは前月比5.6%と4ヵ月ぶりに上昇したが、エコカー補助金再開に伴う国内販売の好調を受けて高い伸びを続けてきた輸送機械が、5月の前月比▲11.1%に続き6月も同▲4.3%と大きく落ち込んだ。速報段階で公表される16業種中、10業種が前月比で低下、6業種が上昇した。この結果、12年4-6月期の生産は前期比▲2.2%と4四半期ぶりに低下した。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷(除く輸送機械)は12年1-3月期の前期比▲2.5%の後、4-6月期は同0.5%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は12年1-3月期の前期比▲5.1%の後、4-6月期は同4.5%となった。GDP統計の設備投資は12年1-3月期に前期比▲2.1%と3四半期ぶりの減少となったが、4-6月期は増加に転じることが予想される。ただし、企業の設備投資意欲は依然として弱いため、回復ペースは当

面緩やかなものにとどまる可能性が高い。

消費財出荷指数は12年1-3月期の前期比4.7%の後、4-6月期は同▲1.9%となった。耐久消費財が前期比▲4.2%（1-3月期は同9.3%）、非耐久財が前期比0.5%（1-3月期は同▲0.1%）であった。自動車販売はエコカー補助金に支えられて増加しているが、出荷ベースではすでに減少に転じている。4-6月期のGDP統計の個人消費は好調を維持することが予想されるが、エコカー補助金の終了が見込まれる7-9月期には大幅に減速する可能性が高いだろう。

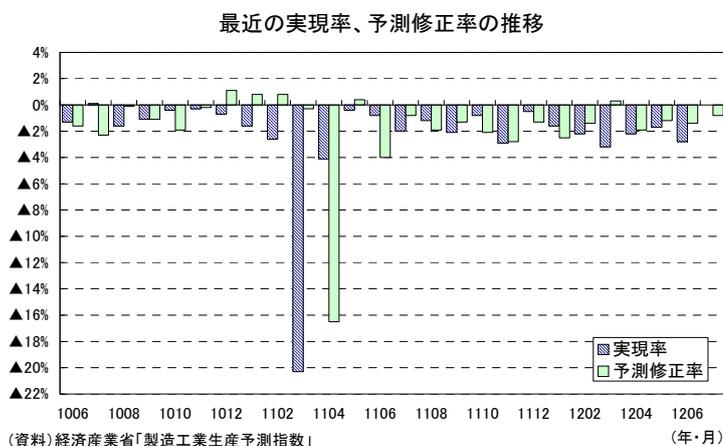


## 2. 7-9月期は増産が見込まれるが、下振れリスクが高い

製造工業生産予測指数は、12年7月が前月比4.5%、8月が同▲0.6%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（6月）、予測修正率（7月）はそれぞれ▲2.8%、▲0.8%となっており、依然として生産計画を下方修正する動きに歯止めがかからない。

7月の生産計画が高い伸びとなっているのは、情報通信機械（前月比15.7%）、電子部品・デバイス（同19.3%）の2業種によるところが大きいですが、実際の生産の伸びはこれを下回る可能性が高い。

また、5月、6月と2ヵ月連続で大きく落ち込んだ輸送機械は7月が前月比▲0.1%、8月が同1.2%と一進一退の動きとなっており、輸送機械がすでに生産の牽引役ではなくなったことを示している。輸送機械の足もとの減産や先行きの生産計画は、エコカー補助金終了後を見越したものと考えられるが、反動減による販売の落ち込みが想定を上回ることにより、さらなる減産を余儀なくされるリスクがあるだろう。



12年6月の生産指数を7月、8月の予測指数で先延ばし（9月は横ばいと仮定）すると、12年7-9月期は前期比2.9%の上昇となる。7-9月期の生産は再び増加に転じることが予想されるが、ここに来て海外経済の減速傾向が一段と鮮明となっていること、輸送機械の生産計画が下振れするリスクがあることなどを考えれば、実際の生産指数の伸びはこれを大きく下回る可能性が高いだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。